

広場からのお知らせ (2021年2月8日)

東京パラリンピック内定の道下美里選手の紹介

東京パラリンピックの代表に内定している道下美里選手は、2020年12月20日、地元、山口県で行われた防府読売マラソンの視覚障害のクラスに出場し、世界記録を9秒更新する2時間54分13秒の世界新記録で優勝しました。



今回はこの道下美里選手について、紹介させていただきます。

陸上と出会う前の道下選手

道下選手は小学校4年の時に膠様滴状角膜ジストロフィーという目の病気にかかりました。膠様滴状角膜ジストロフィーは、眼の黒目部分にある角膜と呼ばれる透明な膜のうち、角膜実質層にアミロイドが沈着することで混濁し、羞明や視力低下、眼痛をきたす病気です。

中学生になって角膜移植手術を受けられましたが、結果的には右目が失明ということになってしまいました。

しかしながら、「右目が失明しても、まだ左目がある」と、頑張り屋の道下選手は、短大卒業後、地元山口で働きながら調理師の免許を取得されています。

ところが、これからというときに、左目も発症し失明しました。

両親や仲間、恋人の笑顔が二度と見られなくなってしまったんです。

その後、実家に引きこもり、母親に対して心無いことばをぶっつけて、当たり散らしてばかりだったそうです。

「自分は社会のお荷物、生きる意味があるのか？」そんな自問自答を重ねたそうです。

引きこもり生活で体重も増えてしまったようです。

陸上に出会ってからの道下選手

26歳から盲学校に通いダイエットを兼ねて走り始めました。

最初はダイエットの延長と考えていた陸上でしたが、タイムが良くなるに連れ陸上に対する情熱が加速していきました。

その後、中距離ランナーとして地元の大会に出るようになり好成績を残していたがタイムに伸び悩みフルマラソンに転向し、2008年、31歳のときフルマラソンにデビューしました。

2013年には大阪国際マラソンに出場し、3時間9分55秒を記録、山口県で行われた防府読売マラソンでは、3時間6分32秒の記録を出しています。

この記録は、当時のパラリンピック世界記録でした。

更に、2014年の防府読売マラソンで2時間59分21秒で世界新記録を樹立しました。

2016年、リオデジャネイロパラリンピックでは、金メダル候補でしたが、ロシア選手に敗れ、3時間6分52秒で銀メダルとなりました。

それでも落ち込むことはなく、2017年、防府読売マラソンで、それまでの世界記録を2分9秒も更新する2時間56分14秒で優勝しました。

コロナ禍でも成長を続ける道下選手

2020年2月2日の、別府大分毎日マラソンで、自身の持つ世界記録を破る2時間54分22秒で2年連続の優勝を果たした。

その功績から2020年12月7日に、スポーツニッポンフォーラム制定「FOR ALL 2020」グランプリを受賞しました。

更に、2020年12月20日の防府読売マラソンで自己の記録を9秒破る2時間54分13秒で世界新記録を樹立しました。



感想

道下選手は両眼が失明しました。両親や仲間、恋人の笑顔が二度と見られなくなり、実家に引きこもって、母親に対して心無いことばをぶつけて、当たり散らしてばかり、「自分は社会のお荷物、生きる意味があるのか？」そんな自問自答を繰り返していたようです。

このような道下さんが、陸上と出会い目標を持つことにより、我々に勇気と希望を与えてくれるようになりました。

コロナの影響が心配ですが、8月24日開催予定のパラリンピック、道下選手を是非、応援したいです。